

～支援ファイルの持続可能な運用と切れ目ない支援の実現～

令和2年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】採択課題

課題名：両磐圏域における支援を要する子どもの支援ファイルの実用化と多機関連携

研究代表者：社会福祉学部 教授 佐藤匡仁

課題提案者：一関市保健福祉部子育て支援センター

研究メンバー：齋藤昭彦（社会福祉学部）、

黒井直子・鈴木佐保（一関市保健福祉部子育て支援センター）

技術キーワード：支援を要する子ども、支援ファイル、移行支援、家庭と福祉と教育の連携

▼研究の概要（背景・目標）

本研究は、一関市保健福祉部子育て支援センターからの提案により、両磐圏域をフィールドに、幼児期から小・中・高等学校への就学移行期を通じて、特別な支援を要する子どもの支援内容・方法等が、本人・保護者・関係機関間において円滑に引き継がれる具体的な手だて（「相談支援ファイル」の作成と活用）を実行し、継続した支援が受けやすくなるための地域療育支援システムへの実用化を検討することが目的である。

▼研究の内容（方法・経過）

1. 相談支援ファイル運用に関する研修会

保護者が保管し主体となって活用していく「母子手帳型」タイプを採用するか、教育・療育サイドが主体となり情報共有・連携していく「カルテ型」タイプを採用するか検討するため、後者を採用している先進事例として、岩手県北上市の実践を学ぶ研修会「テーマ：相談支援ファイル運用の実際 - 北上市のケース - (令和2年10月20日(火))」を開催した。

2. モニター調査

「いちのせきサポートファイル (I wish)」が、ご本人・ご家族と支援機関を繋ぐツールとして活用されるために、モニター（支援を要する子どもを有する家庭10名）に実際に試用してもらい、期待される使い方やメリット、心配される負担やデメリット等、試した使用感・感想についてアンケートとヒアリングを実施し、分析を行った。

▼研究の成果（結論・考察）

1. サポートファイルの利用目的については、高い得点順に第1位「オ、関係機関同士で子どもの情報を共有することで、場が変わっても同じ方向性で支援してもらえるようにするため」(39点)、第2位「エ、関係機関へお子さんの情報を伝えやすくなるため(関係機関や担当者が変わるたびに何度も同じ説明をしなくて済むようにするため)」(38点)、第3位は2項目あり「ウ、お子さんの発達状態等を正しく認識して、現在の考えを整理するため」(24点)、「イ、いつ・どのような機関から・どのような支援を受けたのか、記録を残すため」(24点)であった。第5位「カ、将来に亘る各種行政手続き等(例えば、年金申請等を含め、本人の生育・教育歴や現在の状況が分かる資料の提示)に備えるため」(15点)、第6位「ア、母子手帳のように、これまでの成長の過程や生活の様子を、自ら書きまとめるため」(10点)であった。

2. 記入への負担感。「あった」が3人(30.0%)、「ない」が7人(70.0%)であった。今後もサポートファイルを使用したいか質問した。「そう思う」が5人(50.0%)、「やや思う」が3人(30.0%)、「あまり思わない」が2人(20.0%)、「そう思わない」が0人(0.0%)であった。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 令和4年4月から運用開始

これら先進事例の取り組みやモニター調査の結果等を踏まえながら、一関地区障害者地域自立支援協議会こども部会による協議を重ね、本人・保護者が保管し主体となって活用していくタイプ、いわゆる「母子手帳型」として運用していくこととなった。ただし、関係機関の支援者に管理を相談できるようにした。

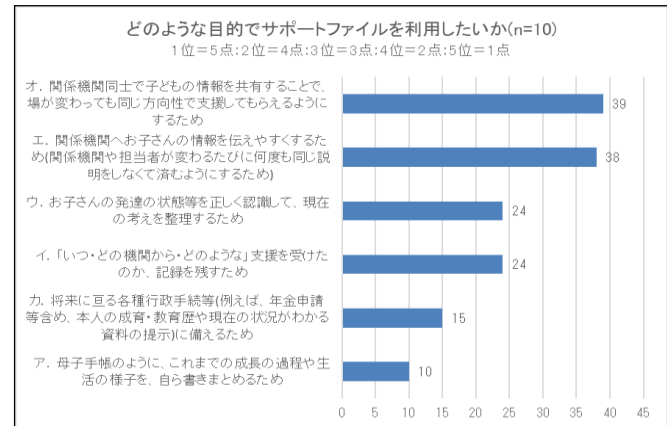
2. 発行には、一関地区障害者地域自立支援協議会と一関市教育委員会が主体となり、一関市子育て支援センターが窓口となっており、保護者の申請に応じて18歳までの子どもを対象に無料作成を受け付けることとした。



先進事例研修会の様子



先進事例研修会の様子

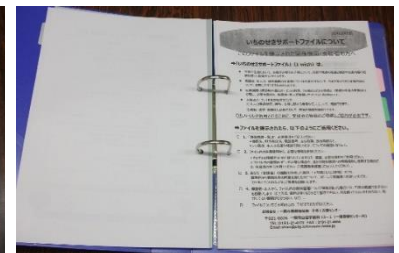


記入への負担感

- ・必要なことなのですが、なかなか普段の生活の中では時間が取れず、有休を使って作成(整理)しました。夜は眠って作成できませんでした…。
- ・要点をまとめて書かなくては、何度も文を見直したり考えたりする必要があり、とても労力がかかる。時間がかかりとても子供が居る間は無理だと思ふ。
- ・フェイスシートについて、生育歴の部分がフリーサイズ。書くのもまとめるのも時間がかかった。
- ・全体的に欄が小さいのではないかと。
- ・病歴の欄にたくさん書きたい人もいるのではないかと。(健診経過、既往の欄について、フェイスシートを見せて頂きましたがさすがに書きにくそうでした。)
- ・負担感はない。学校だともっと沢山のことを書いて提出するので、むしろこれだけで良いのか(少ないのではないかと)と思った。記入量が増えることに対する負担感はない。
- ・相手に伝えたくても、うまい言葉が見つからないことがある。チェック用の紙があると難しい。
- ・書くのを面倒だと思ってしまうので、あまり書きたくない。都度書いた方が整理できて分かりやすいと思うが、量が多いのは嫌になってしまふ。チェックを付ける方式なら良い。何を書いたら良いか、記入量はどのくらいが良いか分からないので、選ぶのならやりやすいできるかも、と思う。基本的に面倒くさがりなのであまりこまめに記録を取っておらず、遅って記入するのが難しい。
- ・記入する用紙が少なく、不安になり、自ら色々資料を足した。離乳食の時期など発達相談で突然聞かれるが、記録を残しておらず答えられないことがある。



いちのせきサポートファイル (I wish)



いちのせきサポートファイル (I wish)

これら「いちのせきサポートファイル (I wish)」の取り組みと成果は、新聞2紙に取り上げられた(令和4年5月15日付岩手日日新聞、令和4年6月9日付岩手日報)。

▼謝辞

一関地区障害者地域自立支援協議会こども部会の皆様、一関市教育委員会の皆様、一関市保健福祉部の皆様、モニター調査の遂行にご協力いただきましたご家庭の皆様、岩手県教育委員会事務局の皆様、及び岩手県障害者自立支援協議会療育部会の皆様に、ここに記して厚くお礼申し上げます。